

なおこの作品は山形屋工作所のオリジナル製

品として生産にかかる予定である。

〔デザイン研究 2 編〕

I. 収納用具のデザイン研究（シリーズNo.1）

II. 木製特産品の意匠研究と実用化

研究員 田原健次

●収納用具のデザイン研究

1. 目的

- 機能性を主体とするコーナー壁面用具の開発。
- 資材の効率的利用と、これに伴う簡易構造体の研究

2. 概要

本体は実験的デザイン研究試作品であり本来の一般的研究様式とされる製品化に重点を置いた開発要領によるものではない。

基本的なこととしては、異った角度からのデザイン思考（既成概念にとらわれない新しい構造体など）と、対業界用の示唆的な指導作品という2点に主力を置き開発に取り組んだものである。

○研究過程

機能的には、コーナーにおいて必要とする左右、2面での使用とその展開性にポイントを置き、互つ、資材の効率的利用も、考慮した

ものである。作品の性質上、軽便用具としての機能性を持つため、この面の構造体の更設計を含めて併考開発したものである。

3. 考察及び成果

実験的試作品のため通常試作品と同列に評価は出来ないと思うが、デザイン研究開発の側面として、この種作業の必要性は大きく、又、公的機関では今後益々求められる方向だと考える。

展示会及び通常展示を通じて、多種の意見に接すると、特に業界からの反響には、所期の目的とした諸件に合致したものが多く今後に一層の必要性が認知されたと思うので、来年度には、これをベースに、もっと気軽に住空間を利用出来るような具体的作品としてシリーズ研究に目処をつけたい。

●木製特産品の意匠研究と実用化

1. 目的

下記5項目の目的を条件に企業ベースで実用化に取り組んだものである。

- 地場企業の技術レベルによる新商品化。
- 良心的商品開発。
- 県内産材の活用（屋久杉等）